

事業の背景・目的

玉之浦町は高木層でスダジイ、タブノキ等、亜高木・低木層でヤブツバキ等、草本層でウンゼンカンアオイ等の南方系自然林が残存する。しかし住民の自然への関心は高くなく、さらに年々増加するシカが町の森林を荒廃させている。そこで地域住民に対して、西海国立公園内の自然を地域の財産と感じてもらい保全するインタープリターを育成する。更に海外への活動紹介をするため、インバウンド受け入れ態勢を強化する目的で、伝統文化の説明などの英訳を進める。



事業の内容

自然林を含む森を保全する目的で3つの事業を実施する。エコツアーを地元住民とともに立ち上げる（エコツアー事業）。保全のため捕獲した獲物の革クラフト等体験プログラムなど新たなビジネス（自然利活用事業）や教材の提案（自然教育開発事業）を進めていく。

事業① エコツアー事業

- ・エコツアーの知識を深めるため研究所や大学の専門家を招聘してシンポジウムやワークショップを実施した。
- ・エコツアーガイド実習を実施した。プロとして活動しているエコツアーガイドと山岳医療に携わる医師とガイドを講師にしてガイド指導を行った。

事業② 自然利活用事業

- ・レザークラフトワークショップの中で利用することを目標にクラフトキットを開発した。
- ・キットを使った商品でエコツアーガイド実習にて実際に商品を作る体験をした。

事業③ 自然教育開発事業

- ・地域で活動している五島自然環境ネットワークと協力して、生物多様性を様々な方法で遊びながら学べるトレーディングカードを作成した。



得られた成果

- ・シンポジウム「生物多様性を活かす産業の創出」を市内中央体育館で実施。140名の市民が参加した。長崎新聞、朝日新聞にて紹介された。
- ・「五島の生物多様性100+」は250部作成した。手にする人は「非常に完成度が高い」「ぜひ使ってみたい」と感想が出ている。今後は、島内の自然学習教材や地域の新しいお土産品として使われていくことなどを期待している。
- ・鹿革については、シカ自体の駆除がかなり進んで、革自体を手に入れるのが難しくなっている。その一方で、市内にあるベトナム人向けの日本語学校などの卒業記念の記念品として利用されたりして、地元に着着してきた。
- ・演目の中に、地域の湾内で捕獲ができるマグロのことや、漁師を困らせながらも自然の豊かさを感じることができるイルカについて昔から変わらずいることを感じさせる「五島神楽 玉之浦神楽」について英訳をしたリーフレットを作成し、市内以外にも広島市や大村市でも公演した際に配布して、より多くの方々に地域の魅力を伝えることができた。この活動を通じて保存会の活動が活発化し、鶴田商店に演舞場を構えて子供神楽教室や演舞会を開催し、地域活性につながった。

